



新年のご挨拶

群馬県中小企業団体中央会

会長 大竹 良明



新年あけましておめでとうございます。令和8年の年頭に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年5月、第13代会長に就任して以来、会員組合ならびに関係諸機関の皆様のご支援、ご協力をいただき、会の運営に当たって参りました。お力添えに心より感謝致しますとともに、引き続きのご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて昨年は、昭和元年(1926年)から数えて「昭和100年」に当たり、その歴史的意義を振り返るとともに、多くの先人の偉業に思いを致したところであります。ここ群馬の地においても、今日に至る礎を築き上げた先達の精神を受け継ぐ重みを、改めて深く感じた一年でした。

この節目の年に、わが国では高市早苗氏が憲政史上初となる女性の内閣総理大臣に就任され、男女共同参画やリーダーシップのあり方について、社会全体の意識変化を促す象徴的な出来事となりました。社会のあり様が大きな転換点に立つ中で、中小企業・小規模事業者においても変革への適合が強く求められているところであります。

他方、国際情勢に目を向けますと、「トランプ関税」をはじめとする保護主義政策の強まりから、本県の主要産業である自動車関連分野や輸出型製造業では、サプライチェーンの再編や調達コストの変動といった影響が懸念されております。加えて、世界各地における緊張の高まりは、半導体などの部品調達やエネルギー価格に不確実性をもたらし、さらにはインバウンド需要の低下など、製造業のみならず観光産業にも重い課題を突き付けています。

また、われわれ中小企業・小規模事業者の現場においては、経営に要するあらゆるコストが上昇する一方で、それに見合う価格転嫁の実現は依然難しく、賃上げ原資となる収益の確保に苦しんでいるのが実情です。さらに、残業規制や働き控えなど制度的要因が複雑に絡み合う中で、労働力不足の深刻化は一層厳しさを増し、日々の事業活動にも支障をきたしつつある現実と直面しております。

こうした中にあっても、地域の中小企業は、協同組合等の活動を通じて、単独企業では実現しにくい前向きな取組を積極的に進めています。各種共同事業の推進による生産性の向上・取引力の強化、業界全体の人材確保に向けた将来ビジョンの策定、販路開拓や地域ブランドの創出など、未来志向の価値創造と経営基盤強化を目指す取組が広がっています。また、自然災害対策やカーボンニュートラルへの対応といった中長期の課題にも協働で取り組み、地域経済全体の安定に寄与するなど、持続可能な成長を実現するうえで重要な基盤となっています。

本会といたしましても、今年で創立70周年を迎えるこの節目を機に、改めて中小企業連携組織の専門支援機関としての初心に立ち返り、会員組合並びに傘下企業の皆様にとって真に役立つ組織であり続けるべく、これまで以上に積極的かつ重層的な支援に力を尽くして参ります。

結びに、本年が皆様方にとって笑顔あふれる実りある輝かしい一年となりますよう心より祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

令和8年元旦



新年のご挨拶

群馬県知事 山本 一太



明けましておめでとうございます。

群馬県中小企業団体中央会の皆さまには、希望に満ちた新春を健やかにお過ごしのことと、心からお慶び申し上げます。皆さまにおかれましては、中小企業組合の設立・運営支援を通じて、群馬県の経済発展に大きく寄与されており、厚く御礼申し上げます。

昨年は「伊香保国スポ2025」における群馬県選手の活躍を皮切りに、群馬県の存在感と勢いを示す数多くの成果を刻むことができた1年でした。「移住希望地ランキング」で初めて全国1位を獲得し、県公式YouTubeチャンネル「ツルノス デイックトック」がTikTok上半期トレンド大賞2025では自治体初の特別賞を受賞しました。アルメニア発祥の教育プログラムである「TUMŌ」をアジアで初めて導入し、デジタルクリエイティブ人材育成施設「TUMŌ Gunma」として「Gメッセ群馬」にオープンしました。11月には、このTUMŌの教育モデルが「教育版ノーベル賞」とも称される「WISE賞」を受賞しました。さらに、10月には「Gunma Flower Park⁺」がリニューアルオープン、11月末には、「温泉文化」がユネスコ無形文化遺産の国内候補に決定するという、大変うれしいニュースもありました。

経済面では、年末に公表された令和4年度の経済成長率が全国トップになったほか、最低賃金の伸び率も全国トップクラスとなるなど、「新・群馬県総合計画」の7つの政策の柱の下に取り組んできた施策が、幅広い分野で着実に実を結んできた実感しています。

本年は、人々を魅了し、ワクワクするような付加価値を生み出す「デジタル・クリエイティブ産

業」の育成を加速させていきます。自動車をはじめとする「ものづくり産業」に並び、未来の群馬県をけん引していく新たな産業に育てるため、「クリエイティブ拠点化」「ロケ支援・魅力発信」「デジタルクリエイティブ人材育成」の3つの柱を中心に取り組みを進めます。

また令和11年に開催される「湯けむり国スポ・全スポぐんま」を見据えて、群馬県民のさらなる活躍を目指して競技力向上に取り組むなど、その準備を加速させます。

これらの取り組みを着実に進めるため、限られた資源を最大限に生かす「ワイズスペンディング（賢い支出）」の考え方を徹底していきます。県庁が自ら稼ぐ政策や、デジタル化による業務効率化で生み出した財源や人的資源を、直面する課題や未来への投資に集中し、県民幸福度の向上につなげてまいります。

本年も「選ばれる群馬」「挑戦する群馬」の実現に向け、県政のあらゆる分野で全力を尽くしてまいります。県内企業の活力が最大限発揮されるよう、皆さまとしっかり連携し、群馬県経済の更なる活性化に取り組んでまいりますので、引き続き県政へのご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しき年が、皆さまにとりまして、希望に満ち、豊穰なる成果をもたらす一年となりますことを、謹んで祈念申し上げます。

令和8年1月1日



年頭に当たって

全国中小企業団体中央会

会 長 森 洋



明けましておめでとうございます。令和8年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、戦後80年の節目の年でした。中小企業・小規模事業者は、激変する経済環境の中で多くの困難な課題を克服しながら、その時々を経済、社会環境に対応出来るよう積極果敢に挑戦を続け、わが国経済の発展に大きな役割を果たして参りましたが、現在、新たな経営課題が山積しております。関税の引上げをはじめとする自国中心的な政策の影響が世界経済に大きな影響を与え、国内でもインバウンド消費額も影響を受けることに加え、依然として物価高騰が続く中での人手不足と賃上げへの対応が急務となるなど、中小企業・小規模事業者を取り巻く経営環境は、厳しい状況に直面しております。

こうした中で、昨年11月12日に広島県広島市で開催した第77回中小企業団体全国大会では、関係省庁・関係機関をはじめ多数のご来賓をお迎えし、全国各地から中小企業団体の関係者約2,100名が参集し、

- I. 中小企業・小規模事業者等の経営環境変化対応、成長促進支援等の拡充
- II. 中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進
- III. 中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備

の実現に向けて、組合関係者の皆様と共に取り組んでいくことを決議しました。

地域の人口減少に加え地域課題が多様化・複雑化していることを踏まえつつ、十分な価格転嫁と取引適正化、物価高を上回る賃上げ、事業承継・

事業引継、自然災害対策、DXやGXの推進、新分野展開、ものづくり補助金や省力化投資補助金による生産性向上、リスクリング等の「人への投資」、外国人育成就労制度・特定技能制度への対応策などの最重要事項については、中小企業組合等連携組織による知恵と力の結集により解決を図ることが必要です。今年も中小企業と組合が我が国の力強い成長を実現する原動力であることを強く思いながら、会員の皆様との連携を一層強化し、対応して参ります。

結びに、丙午の年は「勢いとエネルギーに満ち、大きく飛躍・発展していく」といった意味合いをもつ年とされています。本年が、中小企業組合と中小企業・小規模事業者の皆様の情熱に満ちたご活動が実を結び、力強く飛躍される年となりますことを心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

令和8年元旦





新年のご挨拶

株式会社商工組合中央金庫 前橋支店

支店長 奥野 和之



新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、個人消費の緩やかな回復やインバウンド需要は好調であった一方で、物価や賃金上昇、金利のある世界への移行、米国の通商政策、AI・ロボティクス技術の急速な進化等、日本経済を取り巻く環境が大きく変化した1年となりました。

当金庫においては、2025年6月の政府保有株式の全部売却完了と改正商工中金法の施行により、民営化という大きな転機を迎えることとなりました。この民営化により当金庫は「中小企業による中小企業のための金融機関」として、そして「企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。」というPURPOSEの実現に向けた新たなスタートラインに立ちました。

こうした中、今後、私たちがどのような立ち位置で社会と向き合うべきか、どのような価値を創出すべきかという観点で「商工中金グループのありたい姿」の議論を重ね、この度、長期戦略の骨子を策定しました。その核となる概念が、中小企業を個社として捉えるのではなく、その集合体として捉える「中小企業経済圏」です。

中小企業と地域社会にかかわる多様なステークホルダーが集まる「中小企業経済圏の拡大・活性化を通じて、圏の参加者の価値向上に貢献し続ける」という「商工中金グループのありたい姿」を設定しました。当金庫は、単なる金融機関の枠を超えて「集めて・つなげて・価値を創る」プロデューサーの役割を果たし、中小企業と地域社会にかかわる多様なステークホルダーと、ともに考え、ともに創り、ともに変わりつづけます。

また、中小企業経済圏の拡大に向けて「Industry（産業課題解決）・Innovation（スタートアップ支援）・Investment（エクイティ業務や高度ファイナンス）・Traditional Banking（伝統的な銀行業務の深化）・Turn Around（再生支援）」という5つの注力分野を設定しました。従来の枠組みにとられない柔軟でダイナミックな経営を実現するため、デジタル技術やAIを活用した経営の高度化を推進し、業務の効率化のみならず、お客さまとの接点の質の向上と深い関係性の構築を図ってまいります。

これらの取組みを通じて「企業の未来を支えていく。日本を変化につよくする。」というPURPOSEの実現を目指してまいります。

おかげさまで商工中金は本年12月に創立90周年を迎えます。私ども商工中金は引き続き、群馬県中小企業団体中央会様や、中小企業組合の皆さまと積極的に情報交換・連携を図りながら、群馬県の社会、経済の発展に微力ながら尽くしてまいりますので、今後とも格別のご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして新たな成長への飛躍となる一年となりますことを、こころよりご祈念申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

令和8年元旦